

(書式 2)

学会参加報告書

提出日 2018年 9月 16日

学籍番号	18PDB01	学系	コーチング学
氏名	小口 貴久		
学会等名 (正式名称)	ISBS2018 (36th International Conference on Biomechanics in Sports 2018)		
開催日程	2018年9月10日 ~ 2018年9月14日		
開催場所 (国・都市名)	Auckland University of Technology (ニュージーランド・オークランド)		
発表演題名	KINEMATIC ANALYSIS OF THE START FOR WORLD-CLASS SINGLE LUGE ATHLETES		
参加報告 ・項目別に具体的に記載する。	<p><学会の全体の印象> オークランド工科大学のキャンパスで行われた本学会には、270を超える口頭発表とポスター発表があり、とても盛況であった。スポーツバイオメカニクスの学会であり、陸上競技や水泳とともにサッカー、ボート、フィールドホッケー、クリケット、スキージャンプなど様々な競技の研究が見受けられた。 発表は、ランニング、ボート、器具、障害予防、スポーツ実践など、いくつかのセクションに分かれており、類似した研究が同じセクションで発表され、関係者が集まり議論しやすい工夫がなされていた。また、ポスター発表はすべてデジタルポスターで動画を用いることが可能であり、研究内容がより分かりやすいものになっていた。</p> <p><自分の研究と関連した発表とその内容> 自身と同じそり競技に関する研究は見受けられず、冬季競技はスキージャンプとクロスカントリースキーしか目にする事ができなかった。また、競技会を対象に分析した研究もあまり無いように感じた。しかし、各競技で行われている研究方法や分析対象としている動きなどについて、今後、そり競技の分析を行うにあたり非常に参考になるものであった。</p> <p><自身の発表への質問・コメント> リュージュという一般の人にはなじみのない競技の研究であることから、動きがわかりやすい発表となるよう心掛けた。そのためか、以下のような質問をいただき、研究に興味を持っていただくとともに、発表後には競技そのものについての質問をいただくことができた。</p> <ul style="list-style-type: none">・競技経験者としてスタートタイムの重要性はどの程度か。・逆手でスタートバーを握ることや、幅を広くすることは可能か。		

※ 補助金を受けた学生はこの学会参加報告書を提出すること。

提出期限は学会終了後2週間以内とする。

本報告書は学会参加報告書として日本体育大学総合スポーツ科学研究センターホームページ内に掲載されます。